

小中学校連携、郷土愛育む

モデル校5組10校 取り組み発表

坊勢小・中 島文化や産業、多角的に



坊勢島についての学習の成果を発表する坊勢小、坊勢中の教員ら＝あましんアルカイックホール

兵庫県内各地域の伝統文化について、小中学校が連携し、児童生徒が9年間を通して学ぶ試みが続いている。尼崎市のあましんアルカイックホールで開かれた発表会「ひょうご五国ふるさとフォーラム」では、モデル校が2020年度から2年間の成果を発表。姫路市家島町の坊勢島の言葉や漁業などを学んだ坊勢小と坊勢中など、小中5組10校の教員がそれぞれの実践内容を披露した。

(古根川淳也)

子どもたちのふるさと意識の育成を目指す県教育委員会の「伝統文化の学びの充実事業」の一環。同事業は16年度にスタートし、20年度からは、地域の伝統文化をテーマに小中学校が連携して9年間の一環したカリキュラム（教育課程）を作成している。

フォーラムでは20、21年度に実践したモデル校が成果を発表。学習テーマとした坊勢島のほか、多田銀銅山（猪名川町立白金小、猪名川中）▽播州織（西脇市立西脇小、西脇中）▽生野銀山（朝来市立生野小、生野中）▽高田屋嘉兵衛（洲本市立都志小、五色中）

についてパネルや動画で紹介した。坊勢小と坊勢中は、学習を始める前に、学校として島民が求める人材像を把握したことを発表。住民は「島の将来を担う若者」

が島内での役割を果たすことに期待しており、保護者は「島外でも活躍できる子ども」を願っているという。そこで、進学で島を離れても将来的に地元で活躍できる人材の育成を目指した。

そのための目標として「島、母校、自分を誇り、魅力を発信できる」を設定。小6や中2の国語で坊勢弁のかるたや短歌を作り、音楽では地元の民謡、総合的な学習の時間では漁業などを教材にした。2年間の学習後に児童生徒を対象に行なったアンケートでは「島の良さや魅力を知っている」割合が小中とも1〜2割増し、島への愛着の深まりがみられたという。

を好きになれば子どもも故郷の良さを知る。新型コロナウイルス禍が収まれば、もっと住民を巻き込んだ授業をしたい」と話していた。

フォーラムでは、中学生が郷土学習を生かして動画を作成する「地域自慢映像大賞」の表彰式もあった。主な受賞校は次の通り。最優秀、優秀賞は県ホームページなどに掲載する。

- 【最優秀賞】洲本市立五色中【優秀賞】神戸市立筒井台中、豊岡市立豊岡北中
- 【佳作】小野市立旭丘中、たつの市立龍野西中

くらしの情報

新型コロナウイルス感染症の拡大で、私たちの暮らしに大きな影響が出ています。相談窓口など「くらしの情報」を掲載します。情報は急ぎよ変更される場合があります。

■医療に関する相談